

# Slave to the Night

For adult only

mechi

## もくじ

その日	4
更生	9
部屋	11
奴隷	14
ウィル	18
自覚	21
理由	25
男娼	29
ロボット	36
望み	42
その夜	49

## 登場人物

ジル／ウィル：トラウマ持ちの男娼

クロウ：ギャングのボス、ソシオパス、ジルより少し  
年下

このたびは、当同人誌を

お手にとっていただき、誠にありがとうございました。

お手に取って読みたいと思っていただき、ありがたく思います。

この本は、2021 年に発行した同人誌を受注頒布用に整えたものです。

お楽しみいただけましたら幸いです。

タロットカードの星やソードの10の逆位置が示唆する  
ような、絶望の先の光は僕には無縁だ。

歩いてても歩いてても闇しか見えず、どこにも救いなんか  
ない。

僕が今、かろうじて生きていけるのはここ、イースト・  
ロンドンの男娼館だ。逃げるすべもなく、心と体が朽  
ちていくのをただ待っただけの日々を繰り返している。

## その日

今日の客は、下品な医者風の男だった。もう数週間交  
換されていない湿ったシャツに這いつくばり、尻肉を  
舐めまわされる。ろくな前戯もないままペニスを尻に  
ねじ込まれて悶絶した時、支配人と誰かが話している  
のがボソボソと聞こえた。

顔を向ければ、小さな除き窓の向こうで見知らぬ男が  
僕を見下ろしていた。年齢は30代後半といったところ

か、成熟した青年が壮年に成り代わる年代特有の美し  
さがあった。ワックスで丁寧な七三に分けられた髪や  
小綺麗に整った無精髭には、ここには不釣り合いな清  
潔感がある。印象的な大きな瞳は僕を不愉快そうに見  
つめ、訳はわからないが怒っているように見えた。ド  
ラッグで霞む記憶をどれだけ辿ってもその男との面識  
はなく、クレームを受けるような身に覚えはなかった。  
体内の男根が動き始めた痛みに、その男に意識を向け  
ていられなくなる。客が3度腰を僕にぶつけた時だっ  
た。突然この小部屋に踏み込んできた支配人が客を僕  
から引き剥がし、僕に「服を着ろ」と命じて客を追い  
出した。

言われるまま焦って服を着込む僕に、支配人が唾を吐  
いた。

「外に出ろジル、身請けだ」

僕を、身請け？ 誰が……？ 予想もしていなかった言葉  
に混乱した。僕に常連客はいなくもないが多くの物好  
きな男達で、わざわざとうが立った男を身請けするよ